



巻 頭 言

ピントを合わせ、ぶれずに。

両沼小学校長会 副会長 高橋 裕昭
(会津美里町立本郷小学校)

私は写真を撮ることが好きです。「得意」かどうかは分かりませんがとにかく「好き」です。

○はじめは「ピンホールカメラ」

小学生の時に、夏休みの自由研究として父親からピンホールカメラなるものを紹介された。アルミホイルに針で小さな穴を開けて、ダンボール箱に貼っただけの「カメラ」。どう見ても「カメラ」といえるものではなかった。

箱の内側に印画紙を貼り、待つこと数秒。ちゃんと景色が(逆さまでけど)写っていた。感動。

○「高橋先生、写真撮影上手だね！」

教員になって、フィルム一眼レフカメラを購入。子どもたちの活動の様子を撮影。先輩から一言、「高橋先生、写真撮影上手だね！構図がいいね！」。私、褒められればどこにでも登ります。有頂天。

○連射連射の「数打ちゃ当たる」

デジカメを、登場と同時に購入。フィルム代、現像代がかからず、これまでに数台買い換えていつのまにか連射連射。

以後、教育活動だけではなく、植物、天体、山などなど、好奇心旺盛に何でも撮影。

ペルセウス流星群の撮影では、カメラ4台体制で、撮影枚数は1000枚オーバー。自

宅に帰って、1枚1枚流星が映っているかどうか確認の時間が至福の時。



○撮影する時のおまじない

撮影する時のおまじないは、「ピントを合わせる」「ぶれない」。

日々変化する毎日。「今、私は学校課題の何に焦点を当てているのか？」「ぶれずに学校運営に当たっているのか？」自問自答の毎日です。

校長昇任時にお仕えした校長先生より、「校長として、覚悟をもって事に当たること」の大切さを教えていただきました。私は、思うだけではなく、実際に「覚悟を決めた。」と何度も声に出しています。そうすると自然と肩の力が抜け、大局を見通すことができます。

「ピントを合わせ、ぶれずに。」なかなか難しいことですが、毎日が挑戦です。



両沼の思い出

自分のカラーを出しなさい



会津若松市立河東学園小学校
渡部 仁一

【写真は二宮金次郎像と勝常小校舎】

勝常小学校に初任校長として赴任し、両沼地区校長会長も務められた力のある江川浩校長先生の後を引き継ぎました。先輩の江川先生が手腕を振り素晴らしい学校経営をし、伝統を築いてくださった学校ですので、何とかそのよさを守りたいと考えていました。

5月に教育長様と期首面談をしました。前任の校長先生の学校経営・運営ビジョンをもとに人事評価シートを作成し、ほぼ似たような目標・手立ての内容を説明しました。

すると即座に、教育長様は「何だ、あなたらしさが出てないじゃないか。」と、言われたのです。私はびっくりして「ベテランの校長先生が築いた財産を守るのが大事だと思いますし、1年目はある程度敷かれたレールを進むのが良いと思ったからです。」と話す中、「あなたのカラーを出さなければ、校長になった意味がないでしょう。自分の特徴を出して、学校経営をなさい。」と、ご指導くださったのです。私は、校長は守りや受け身ではなく、攻める姿勢の大切さと責任の重さを学ばせられました。近隣の校長先生方からも実に多くのことを教えていただきました。

また、校長を務められた湯川公民館社教主事の栗村良輔先生からも校長としての心得や経営のノウハウを教わりました。湯川村の社会科資料集の編集のため、2人で写真を撮りに行ったり、知恵を絞ったりもしました。三町村の学校教育指導員の仕事では、坂下町の教育長様を始め教育委員会の皆様にも大変お世話になりました。

勝常小での2年間を楽しく充実した日々で過ごせましたのは、両沼地区の校長先生方、同僚と保護者・地域の皆様、村教育委員会の皆様のおかげです。ありがとうございました。

【2学期早々の令和元年8月27日に記す】

感謝と精進

会津若松市立東山小学校 津田 宗人

遡ること2年半。緊張の中にも、少しホッとした気持ちで両沼小中学校長会総会に臨みました。赴任前の校長会は80名の大所帯で、一人一人が埋もれてしまいそうでしたが、24名（まだ西山中があった時代）の家族的な雰囲気の中に、自分の居場所を見つけたような安堵感がありました。

2年連続で東北連小に出席し、山形と八戸の夜も堪能させていただくことができました。両沼小学校長会の研究は1班7名ずつのため一人一人の存在が大きく、「組織的」と呼ぶにふさわしい、模範的な形態と内容であったように思います。研究内容が自校の学校経営にすぐに生かされたことが何よりありがたかったです。

勤務時間後の研修も充実しており、高田の夜、坂下の夜、柳津の夜、それぞれに会話ははずみ、楽しいひとときを過ごすことができました。退職・現職校長会の懇親会も気さくな先輩方と本音で語り合い、学校経営のヒントをたくさんいただきました。いい思い出ばかりです。本当にありがとうございました。

この4月からは42名在籍の小中校長会に所属し、再び研究に携わることになりました。7年連続です。これまでに経験したことのないさまざまな学校課題を解決すべく、日夜奮闘の毎日です。それぞれによさと課題を抱えた子どもたち、様々な考えの保護者の方々に対して、校長としてどうあるべきなのか考え、悩み、手探りで学校経営にあたっています。両沼校長会で育てていただき、学んだ多くのことをもとに、深く考え、正しく判断し、効果的に表現して伝えることができるように、日々精進していくつもりです。今後ともよろしく願いいたします。

両沼の思い出

三島での美しい思い出

南会津教育事務所 渡部 学

平成29年4月、三島小学校に新任校長として赴任した私は、大きな期待とともに責任の重さからくる不安を抱いていました。しかし、何事にも真剣に取り組む子供達、子供達に寄り添いながら熱心に指導する先生方、積極的に学校に協力して下さる保護者や地域の方々と生活をともにしていくうちに、どんどん不安が払拭されていきました。

全職員が「すべては子供達の笑顔のために」をスローガンに取り組んだことにより、いろいろな場面で子ども達の笑顔をたくさん見ることができました。

三島を離れて約半年が過ぎようとしていますが、今でも子供達の笑顔と菜の花畑から眺めた三島小学校の風景が心の中にあります。子ども達や先生方はもちろん、地域の方々、豊かな自然など本当に恵まれた環境の中で教育に携わることができたからこそ、美しい思い出として心に刻まれているのだと感じています。

最後になりますが、両沼小学校長会の皆様には、着任時から和やかな雰囲気でも迎えていただいたこと、そしていつも温かく支えていただいたことに、心より感謝申し上げます。皆様からご指導いただいたことを生かし、これからも子供達の笑顔のために頑張っていきます。2年間本当にありがとうございました。



新任校長として

地域、子どもたちとともに

湯川村立勝常小学校 五十嵐 喜浩

会津盆地の真ん中（会津のへそ）にある「湯川村」。おいしいお米と豊かな風土、米と文化の里「湯川村」。学校の隣には国宝及び国重要文化財を有する「勝常寺」、学区内には人口三千人の村に年間百万人以上訪れる「道の駅あいづ」。

赴任してから6ヶ月が過ぎようとしています。勝常寺念仏踊りでの保存会の方々、総踊り会津磐梯山のお囃子でご指導いただいた湯川村長様、勝常寺住職様、田植えや野菜の苗植えでご指導いただいた地域ボランティアの方々、温かく励まして子どもたちを育てている保護者や地域の方々の姿に感謝し、学校と地域が一体となって子どもたちを育てているすばらしさを感じています。これまでの歴史と伝統を引き継ぐとともに、新たな時代に適応し、未来を見据えた新たな伝統も加味し、そして未来につなげていくことが責務と考えます。

これからの未来を創り出す子どもたちを育むには、学校と地域・家庭が一体となって連携・協働することが不可欠です。地域の様々な人々とのつながりを保ちながら、学ぶ環境や地域とともにある学校をつくることで、学びの充実、生きる力の育成に努めていきたいと思ひます。

教職最後の学校、母校勝常小学校の子どもたちの夢の実現に向けて、一先輩として、一教師として全力で取り組んでいきたいと思ひます。



国宝薬師如来像を有する「勝常寺」

新任校長として

“校長としての世界観で”

会津美里町立新鶴小学校 山内 徹

4月から会津美里町立新鶴小学校に校長として勤務し、早くも半年が終わろうとしています。あっという間の6か月でした。

本校は昭和47年に統合して新鶴小学校と改称し、昭和48年に校舎が落成しました。現在児童数183名、実家庭数134戸です。3世代家族が多く、子どもたちは大変素直です。地区住民、保護者とも学校教育への関心は高く、さらに学校が地域の拠点であるとの意識があり、学校の教育活動に対して惜しみなく協力をいただいています。学校と地域の連携が浸透していると同時に、こども園・小・中の連携がしっかりとしています。

私は校長として

- ・職員が新鶴小で働きたいと思える学校
- ・子どもにとって毎日楽しいと思える学校
- ・親が「子どもを新鶴小に通わせてよかった」と思える学校
- ・地域にとって誇れる学校

を目指しています。

そのために「授業スタンダード」を基盤とした授業作り、「一人一人が役割を果たす」学校運営、「教員としての資質の向上に関する指標」に照らし合わせての自分の振り返りなどに取り組みせながら、チームとしての組織作りを推進していきたいと考えています。各家庭には「家庭学習スタンダード」に基づいた取り組みを呼びかけて協力をいただいています。

学校・家庭・地域が一つになり「**今日が楽しく明日が待たれる学校**」にし、全会津から「新鶴小で働きたい」「自分の子どもを新鶴小に通わせたい」そんな注目される学校を目指していきたいと思っています。

町村だより

「赤べこプラン」

柳津町立柳津小学校 星 潔

柳津町は、今から400年ほど前に会津地方を襲った大地震で大被害を受け、現在の場所に虚空藏堂（本堂）を再建するため大材を運ぶのに大変困り果てていたところ、仏のお導きか、どこからともなく力強そうな赤毛の牛の群れが現れ、大材運搬に苦勞していた黒毛の牛を助けたという赤べこ伝説が伝わる「赤べこ発祥の地」です。町の至る所で赤べこを発見することができます。

そんな柳津町の教育に欠かすことができないのが、町教育委員会と町の教職員で組織する町教育研究会が連携して作成した「赤べこプラン」です。このプランは、本町児童生徒の学力の向上と学習習慣の形成のために、町内3校が家庭と連携しながら、同一歩調で、子どもたちの指導にあたっていくためのもので、学力向上に関しては2種類あります。

1つ目は「授業の約束」です。これは、時代が要請する学力を身につけるために、本町教職員が心掛けていることをまとめています。もう1つは「学習の約束」です。これは、小学校9年間を見通して、それぞれの学年・段階で身につけてほしい学習習慣や学び方をまとめています。この2つのプランに沿って児童生徒の学力向上に日々努めています。

また今年度より、「赤べこプラン柳津町小・中学生の体力づくりの約束（教師用）」に基づき、全学年で陸上を重点単元に設定し、走力の向上に力を入れた一貫性のある体力向上策にも取り組んでいるところです。

これからも教育委員会と小・中学校が連携し、未来を担う児童生徒の学力・体力が更に向上するように、保護者の皆様のご理解、ご協力を得ながら、「赤べこプラン」に改善を加え、一丸となって取り組んで参ります。

町村だより

【昭和村だより】

昭和村立昭和小学校 小川 茂樹

昭和村は、人口千二百人余りですが、転入が転出を上回る、福島県内では数少ない、「社会増」の自治体です。伝統工芸である「からむし織」の「織姫」募集や「カスミソウ」栽培の就農受入等、村のよさを生かした取組等が効果を上げています。お陰様で、小学校27名、中学校13名の小さな学校ですが、毎年継続して新入生を迎えています。

「からむし織」や「カスミソウ」については、小学校の「総合的な学習の時間」で取り上げ、中学校では特に、「カスミソウ」について「花育」と称するキャリア教育が地域の協力の下、継続されており、昨年度、文部科学大臣賞を受賞しました。また、村の成人式では、美しいカスミソウに飾られた式場で、女性の新成人が涼しげで気品ある「からむし織」の着物で参加しています。

山々に囲まれた昭和村は、自然の宝庫でもあり、県自然環境保全地域指定の「矢ノ原湿原」や野尻地区の皆さんの保護による「ビオトープ」などがあり、小中学生ともに貴重な自然体験をさせていただいています。さらに、伝統文化の継承や復興にも力を入れており、冬には、お年寄りや子ども達が集まっての「百万遍」が、夏には地域の方々が楽しみに待っている「盆踊り」が行われています。加えて、明治時代より約百年間途絶えていた「渡御祭」が地域の皆様のご尽力により復活しました。

博士山トンネルも数年後の開通を目指して、順調に工事が進められており、会津の中心に位置する昭和村のますますの隆盛が期待されているところです。



諸団体活動から

学校図書館協議会

三島町立三島小学校 藤田 雅也

小中学校23校のご協力をいただき、学校図書館協議会両沼支会の活動を進めることができますことに心より感謝申し上げます。過日は、県読書感想文コンクール両沼地区審査会を無事に終了できました。

さて、本年度も、県の研究主題「未来を拓く学びをひろげ、豊かな心を育む 学校図書館」を受け、「(1)子どもの感性を磨く読書指導」「(2)子どもが主体的に教科・領域の学びを深める情報活用」「(3)子どもが集う魅力ある学校図書館づくりとその運営」を研究の重点として、取り組んでいるところです。各校の実情に合った、実効性のある図書館教育の充実・発展を図ってまいります。

来年度から小学校で全面实施となる新学習指導要領においては、学校図書館を活用した主体的な学びの重要性が指摘されています。県では、学力と読書との関係性を明示し、学校司書の設置の拡大と学校図書館機能の充実を図っています。各校では、学校図書館の「読書センター」・「学習・情報センター」としての機能が効果的に活用されることで、子どもたちの知的活動が活性化され、学びを深め、広げていくことが期待されています。子どもたちの「生きる力」の育成に向けて学校図書館が十分に活用されますよう、校長先生方のリーダーシップをお願い申し上げます。

学校図書館協議会は、近年の学校数の減少等の課題を考慮し、県大会を隔年開催へと変更しました。令和2年度は安達地区での開催が予定されています。

今後とも、ご協力をお願いいたします。



諸団体活動から

両沼学校給食研究会

金山町立横田小学校 児山 秀典

本会は、両沼地区学校給食実施校及び共同調理場により組織され、よりよい学校給食について研究し、その発展充実と円滑な運営を図ることを目的としています。本県では、学校における食育の方向を示す「ふくしまっ子食育指針」が示され、その指針をもとに、児童・生徒や学校・地域の実態に応じた食育が推進されていることと思います。

本研究会では、7月に、主に栄養教諭・栄養士・栄養技師・調理員を対象にして、夏季研修会を開催いたしました。講師には、株式会社日本調理機から下平智恵様をお迎えし、午前中には調理講習会を、午後には衛生管理や学校給食で使用する機器・器具について効果的な活用方法や留意点等について、講話をいただきました。たくさんの参加をいただき、充実した研修となりました。

今後は、栄養士部会を中心に食育授業研究会も実施される予定です。食育指導の充実と啓発、安全安心な食の提供、衛生管理等について協議を深めていきます。今後とも本会へのご理解とご協力をお願いいたします。



編集後記

日増しに秋も深まってまいりました。野山の紅葉もこれから益々色鮮やかになる季節を迎えます。

さて、お陰様をもちまして『広報両沼』第130号を皆様にお届けすることができました。「巻頭言」をお寄せいただいた高橋裕昭副会長様をはじめとして、原稿をお寄せいただいた各先生方には、ご多用の中でのご執筆、誠にありがとうございました。また、昨年度末に両沼地区から移動された3名の先生には両沼での思い出等をお寄せいただきました。改めて紙面をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

もうすぐ、2学期も折り返しを迎えます。各校では、学習発表会等の行事の準備に忙しい毎日を送っていることと存じます。しかし、令和2年度の新学習指導要領の小学校全面実施に向けて、時数の確保や教育課程の作成などの課題に取り組まなければならない時期が間近となっています。校長として、早めに方針等を掲示しなければと心の準備をしているところです。校長会としても、それぞれの活動のまとめの時期に差し掛かっています。

各校長先生におかれましては、おいそがしい時期を迎えますので、お体を十分ご愛ください。残り半年のご活躍をお祈り申し上げます。

令和元年10月11日

両沼小学校長会広報部第130号担当
三島小学校 藤田 雅也